

【調査研究部門】立命館大学の沖裕貴先生を講師に招いて「教職キャリア研究会（第2回）」を開催しました。

教職キャリア開発センター主催の「教職キャリア研究会（第2回）」を12月14日（金）に開催しました。本研究会は、学内教職員の「教職キャリア」に対する理解を深めることを目的として、継続的に開催されているものです。

このたびは立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長 教授 沖 裕貴氏をお招きし、「大学における学生参画を考える」と題したご講演と意見交換会を行いました。

立命館大学では、授業改善、キャリア形成、学習支援、新入生へのオリエンテーション、図書館（ラーニングcommons）でのサポート、広報活動等、多岐に渡る活動に多数の学生が参画し、その諸活動を大学が支援しています。

授業におけるピア・サポーターは、ES（Educational Supporter）と呼ばれ、一定のトレーニングを受けて、授業の運営や改善に関与します。ESになることで、自らが成長することを実感する学生も多く、また、教員と学生の媒介役となって、学生の意見を教員にフィードバックすることがあり、FDに対しても大きな貢献を果たしているとの説明がありました。

さらに、こういった学生参画を支援し、実現するためには、教員と職員が、互いに職務の専門性を深めながら協働することが必要不可欠であるということが強調されました。本学においても、新たにラーニングcommonsが整備され、学生の自主的な学びや学生同士の支え合いを今後さらに促進していく予定であり、講演後の意見交換会ではこのような視点から多くの意見や質問が出されました。学生参画を実質的に機能させるためには、学生・教員・職員が協力し合いながら、そのような文化を作り出し、定着させる必要があると言えます。その目標のために、今回お話しいただいた立命館大学の取り組みには、参考にすべき点が多くありました。

教職キャリア開発センターでは、今後もこのような研究会活動を通じ、学内における教職キャリア形成についての理解を深めていきたいと考えています。



立命館大学の沖裕貴先生の講演